

---

# カエルのケロ助V e r . 5 . 0 1

山羊ノ宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

カエルのケロ助Ver.5・01

### 【Nコード】

N15010

### 【作者名】

山羊ノ宮

### 【あらすじ】

カエルのケロ助は黄金の八工を探し、旅を続けていた。

・・・はずであった。

気がつくとケロ助はいつの間にか人間の女の姿になっていた。

カエルのケロ助は黄金の八工を探し、旅を続けていた。  
・・・はずであった。

気がつくとかケロ助はいつの間にか人間の女の姿になっていた。

場所は学校の一室。

外は夕暮れで、部活動に励んでいた学生たちも片づけを始めていた。  
ケロ助は夢かとも思ったが、妙に現実感がある。

どうやら夢ではないらしい。

これも運命かとケロ助は全てを受け入れた。

「どうしたんですか？ 芳崎先輩。ぼんやり外を見つめて」

その一室にはケロ助の他に男が一人いた。

芳崎先輩とはどうやらケロ助の人間の名らしい。

ケロ助はこれを自分の名だと認識した。

「別に何でもありません」

ケロ助の言葉に説得力がないのか、男は怪訝そうにしたままである。  
だが、

「ひゃう！」

奇妙な声と共にその表情も一変する。

電灯の明かりに誘われてやってきた蛾が男の顔を襲ったのだ。

反射的にこれを食そうとケロ助は動くが、いかんせん人間の体は勝手が違う。

舌が伸びないので、仕方なしに手で掴みにかかった。

しかし、蛾を手中にしてケロ助は思う。

どうにも食指が向かない。

どうやらこれも人間であるが故の弊害らしい。

仕方がないので、蛾を外に放した。

「芳崎先輩って虫平気なんですか？」

「兵器とは？」

「いえ、一般的に女の子って虫が苦手なつて」

「いえ、むしろ好物です」

「鉋物？」

「正確には好物だったと言っべきでしょうか？」

ケロ助はふと考えた。

己とは何かと。

自己を構成する要因とはいくつもある。

いや、いくつも無いと自己を保てないと言っべきだろうか。

今ここにケロ助は人間であるが、カエルでもある。

しかし、目の前にいる男にしてみれば、ケロ助は風変わりな女の子にしか映らないだろう。

すなわち、自分だけが知る自分。

他人だけが知る自分。

自他ともに知る自分。

自他ともに知らない自分。

これを総合して、もしくはその一面を切り取って自分となすのだ。

あいまいも曖昧藻子なものではあるが、自分と言っものを定義するときには無

意識、意識的であれ、これを選択する。

ただ言っなれば、この選択をする自己と言っものは紛れも無く自分であることは間違いない。

「貴方の目には私はどんな風に映りますか？」

「えつと、あの、その、先輩は可愛いつていうか。素敵で、あの、その、憧れるつていうか。むしろそれ以上つていうか・・・」

顔を赤らめながら男は身悶えている。

どうやらケロ助の人間の姿は可愛いようだと言っ事をケロ助は認識した。

「そうですか」

ケロ助がそつけない返事をしたのが、男にはショックだったらしく、男は顔を俯かせた。

「ところでお聞きたい事があるのですが」

「あ、はい。何ですか？先輩」

「黄金の八工と言うものを知りませんか？」

「はい？」

まあ、何が起ころうとケ口助の旅は続くのだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1501o/>

---

カエルのケロ助Ver. 5.01

2010年10月10日13時36分発行